

2005年2月22日
第4回JIPA知財シンポジウム

企業経営に必要な知財人材の育成は
どうあるべきか

三共株式会社
執行役員・知的財産部長
大野 彰夫

1. 自身の知財・経営との関わり

- 知財問題・知財部経営に関して一切の権限と責任を有する
- GRDMC(最高R&D会議) ad hocメンバーとして投票権はないが拒否権(?)を有する

2. 知財経営の視点から経営者層が知財部門に求めているのは何か

- 神の神託を国王（経営者）に告げる巫女の役割
- 部門長および構成メンバーが国際水準かつ業界最高レベルの能力をもつこと（知財部ミッション）

3. 知財経営の視点から知財部門が経営層に求めるものは何か

- 従来どおり、知財重視・知財部重視の姿勢をとりつづけること

4. 知財経営の視点から経営層を支える知財の戦略スタッフのあるべき姿

- 部門長自身が巫女となれること
- 「外来」部門長の場合は有能なNo.2を巫女代理とすること。部員を本気で信ずる一方で醒めた目をもつこと

5. そのような知財の戦略スタッフを育成する方法

- 寺小屋方式OJTを基本とすること
- キャパシティ・ビルディングに明確な複数のメニューを提示し、中長期の本人のポジショニングを意識させ実行させること
- 社内外の他人の飯を喰わせること、他流試合をさせることは有用である